

今月は「訪問看護」のご紹介、第7弾です。いざというとき訪問看護を知っていることで自宅での療養を安心して選択いただけるように、訪問看護の基本的なこと、知って欲しいことを事例を交えてご紹介いたします。今回のテーマは『がん末期』での訪問看護についてです。

*** 今月の訪問看護の基礎知識 ***
～悪性腫瘍の末期での訪問看護の利用～

◆『がん末期』での訪問看護の利用について

- ・主治医からの指示書（訪問看護指示書）に「〇〇癌の終末期」などの病名の記載があれば、以下の特別な対応で訪問看護サービスをご利用いただくことができます。
- ・『がん末期』の方は医療保険での訪問看護サービスを利用できるため、訪問回数の制限がなくなります。それにより日々の密なサポートが可能となります。また、信頼関係も早く築くことができ、安心して在宅で療養いただくことができます。
- ・例えば、動いている方でも、化学療法などで通院されているような方でも、上記病名の記載があれば対象となります。



事例1：80代男性（Aさん） がん末期 奥様が自宅での療養を強く希望

- ・奥様のご希望で自宅での療養を開始、奥様は「最後まで自宅で」と強く希望されていましたが、Aさんは「妻では無理だと思う」と心配され、緩和ケア病棟への入院も検討されていました。
- ・奥様が不在の際に、Aさんから入院について相談されることもありましたが、訪問看護師は思いを傾聴しつつ、病状の変化によるBさんと奥様の精神的悲嘆や不安に対しアドバイスをしながら、本人と奥様を支援していました。
- ・療養中に胸痛、呼吸苦があり救急搬送されたことがありましたが、退院後は悪化なく過ごされ、奥様は希望通りBさんをご自宅で看取ることができました。奥様によれば「最後まで自分でトイレに移動したい」というAさんの思いも叶えられたようでした。



事例2：70代女性（Bさん） がん末期 在宅での療養・看取り希望

- ・医師から病状の説明を受け、自宅での療養を希望。訪問看護サービスを利用することとなりました。
- ・開始に当たり、訪問看護のサービスや緊急時の対応等を説明すると、ご夫婦の不安も和らいだ様子でした。またステーション内では、主担当の看護師を中心に数名が協力し頻回の訪問ができるよう、情報を共有し訪問体制を確認しました。
- ・訪問時には身体・服薬・食事摂取状況、排尿状態等をチェックし、異常時は主治医へ報告、指示を受けながら対応を行いました。
- ・徐々に苦痛が増してきた際には麻薬使用による苦痛緩和のご提案を納得いただき、主治医に相談。診療後麻薬の使用が開始されました。
- ・ご主人はいつも側にいらっしゃった様子で、食事も全てご主人の手作り。「食べただけで喜んでくれる」と、ご主人は笑顔で話してくださいました。
- ・飲食できないことも多い中、コーヒーやラーメンの匂いに「いい匂いね」と、ご自宅での日常の当たり前前に癒されていたことが印象に残っています。
- ・最期はご希望通りご自宅でご主人に看取られながら、穏やかに永眠されました。



<解説>

- ・死亡原因第1位のがんについては、がん末期の状態でも不安なく自宅療養できるように、訪問看護の特別な対応が制度化されています。
- ・主治医も、訪問看護の特別な対応を指示できるからこそ、ご自宅での療養を希望された際に、安心して退院をお勧めできるのだと思います。

	第1位	第2位	第3位
2019年	悪性新生物	心疾患	老衰

「厚生労働省 2019年人口動態統計」

安心を
お届けする

☆ご質問・ご相談等、お気軽にお声掛けください



わかばクリニック

WAKABA CLINIC

熊本市東区若葉3-13-20 ☎096-285-6014 web: wakaba-cl.jp